

ボランティア活動における学生の意識変容について（Ⅲ） —卒業生への聞き取り調査より検討—

Analysis of the Change of Students' Consciousness in Volunteer Activities (III) —Detailed Study on the Result of the Reports from Graduates—

(2012年3月31日受理)

松井 みさ 谷本 満江
Misa Matsui Michie Tanimoto

Key words : 卒業生, 保育現場, 意識変容

要 旨

平成19年に発足した保育学科直轄ボランティアグループ「あっぷる」のボランティア公演に、在学中延べ3回以上参加した卒業生40名にアンケート調査を行った。回答者28名の中から、16名の卒業生に聞き取り調査を行うことができた。

聞き取り調査では、アンケートの各質問項目において、平均点を出し、それに比し極端に高い、または低い点についてなぜそう思ったかを中心に尋ねた。その結果、在学中2年間にわたり、ボランティア活動を継続して行った卒業生の多くは、その経験が自分の中で意識変容につながり、現在の仕事に何らかの形で生かしていこうという思いを持っていることが分かった。また、直接保育現場に携わっていない卒業生においても、在学中の経験を現在の仕事の中で応用しようとしている姿が見られることが分かった。

はじめに

ボランティア活動における学生の意識変容については2008年、2010年の全国保育士養成協議会研究大会、また本学紀要第8号、第10号において発表を行った。ボランティアグループAPPLE（あっぷる）（以下あっぷると称する）の活動内容は、保育園などで行われている子育て支援の親子を対象に、手遊び、オペレッタ、ペープサート、ふれあい遊びなどの公演である。

今回は、卒業生にとって在学中のあっぷるのボランティア公演が、現在の仕事にどのように意識変容をもたらしているか、アンケートと聞き取りによる調査を行い検討したので報告する。

研究の方法

アンケート協力者は、平成19、20、21、22年度に保育

学科学生として、あっぷるのボランティア公演に複数回参加した卒業生40名である。

アンケートをもとに卒業生に聞き取り調査を行った。

調査期間：平成23年5月～平成24年2月

アンケート回答者：28名

聞き取り調査協力者：16名（岡山7名、福山4名、
島根1名、高松2名、
広島2名）

研究の結果

1. アンケート質問項目と自己評価

アンケート質問は以下の8項目と自由記述である。

1. 子育て支援の方法を学んだ
2. 子どもの育ちを学んだ
3. 子どもへの援助や関わり方を学んだ
4. 保護者との関わり方を学んだ

- 5. 保護者と子どもとの関わり方を学んだ あてはまる 5点
 - 6. 関係者との関わり方を学んだ ややあてはまる 4点
 - 7. 自分で企画し、実践できるようになった どちらともいえない 3点
 - 8. 自分に自信が持てるようになった あまりあてはまらない 2点
- あてはまらない 1点

上記の質問に対し5段階で自己評価してもらい、次のように点数化をした。

回収アンケートの点数化結果は表1に示す通りである。

表1 卒業生アンケート結果 (28名)

質 問	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	平均
子育て支援の方法を学んだ	1	3	3	3	5	5	5	4	3	4	5	4	4	3	4	4	2	3	4	4	5	4	2	4	5	4	4	4	3.8
子どもの育ちを学んだ	2	5	4	5	5	4	5	3	3	3	4	4	4	3	4	4	1	3	5	5	4	4	2	3	5	3	4	5	3.8
子どもへの援助や関わり方を学んだ	3	4	4	4	5	5	5	5	5	4	5	5	4	3	5	5	5	3	5	4	4	5	3	3	5	4	5	5	4.4
保護者との関わり方を学んだ	1	4	3	3	4	4	5	4	4	1	3	5	4	4	3	3	1	3	2	4	3	5	3	3	4	5	5	4	3.5
保護者と子どもとの関わり方を学んだ	2	5	3	3	5	4	5	3	4	2	4	5	3	4	4	4	5	3	3	4	3	4	3	4	4	4	5	4	3.8
関係者との関わり方を学んだ	3	4	4	5	4	4	5	4	5	3	4	5	4	3	4	4	4	4	5	4	4	4	5	4	5	3	4	4	4.1
自分で企画、実践できるようになった	2	4	4	5	4	5	3	4	4	4	4	4	4	4	5	4	3	3	4	4	5	4	4	3	5	3	5	4	4.0
自分に自信が持てるようになった	3	3	4	5	5	5	5	4	5	5	5	4	4	2	4	5	4	4	4	5	4	5	5	4	5	5	5	5	4.4

2. 卒業生への聞き取り調査

生が聞き取り調査に協力をしてくれた。

1) 卒業生聞き取り調査協力者のアンケート結果について
 時期的な事や、仕事の都合により、28名中16名の卒業

聞き取り調査に応じてくれた卒業生のアンケート結果は
 次のグラフに示した通りである。(図1~16)

表1 卒業生アンケート結果 (28名)

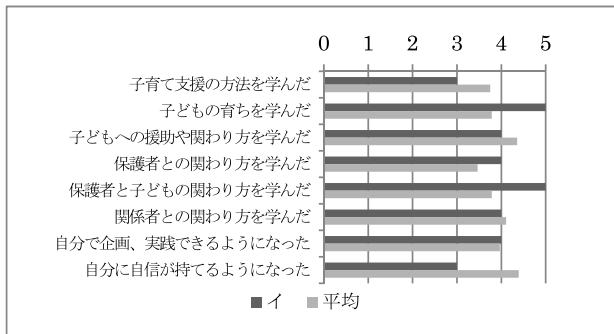


図 1

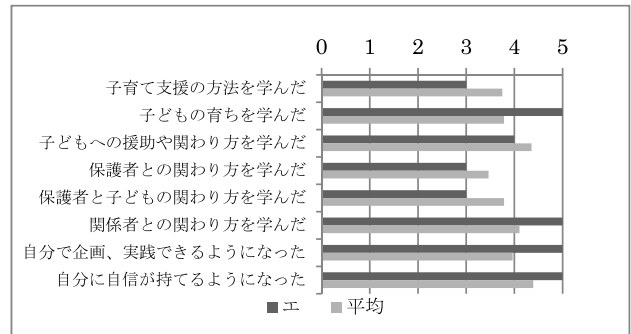


図 3

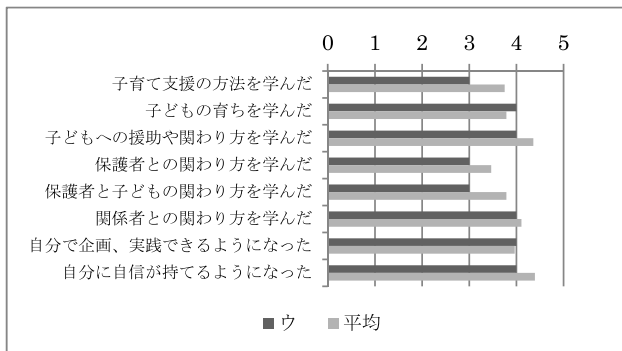


図 2

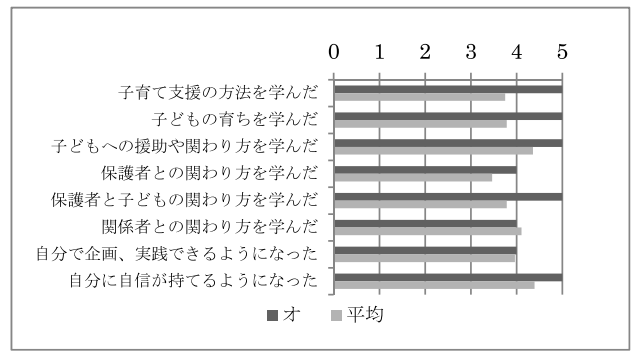


図 4

ボランティア活動における学生の意識変容について (Ⅲ)

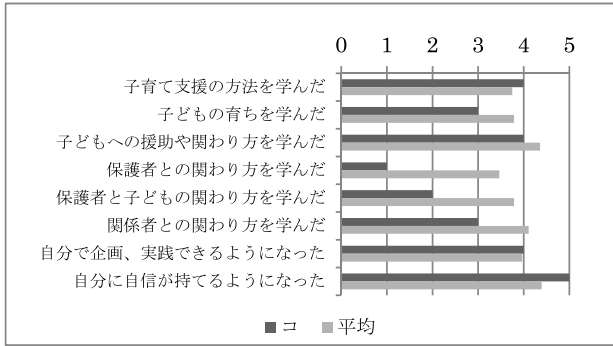


図 5

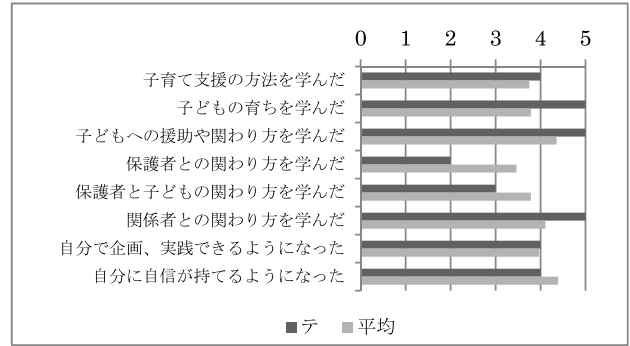


図 9

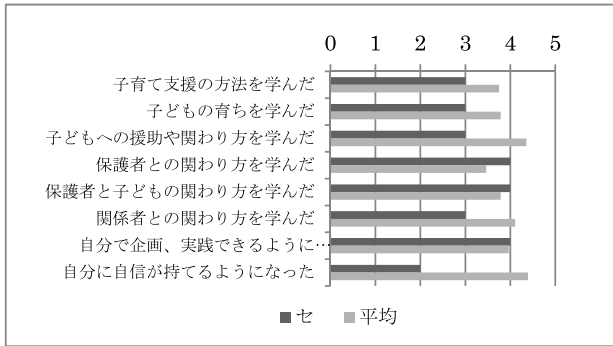


図 6

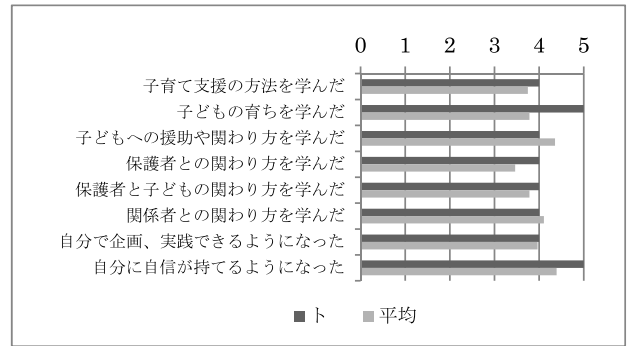


図 10

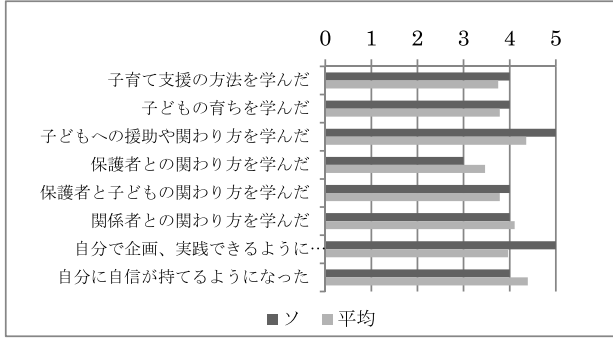


図 7

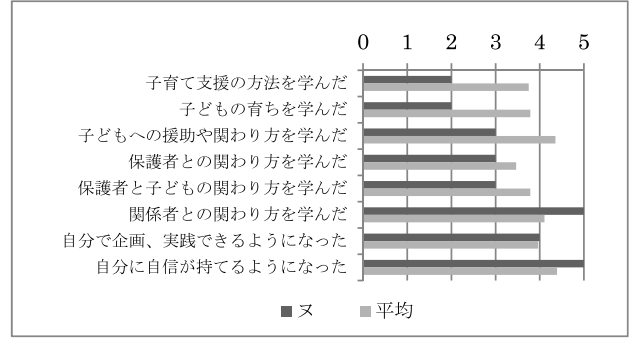


図 11

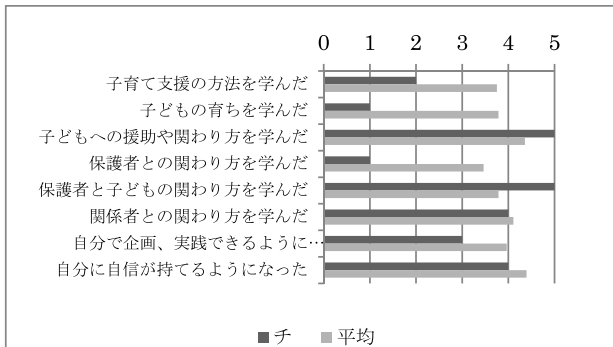


図 8

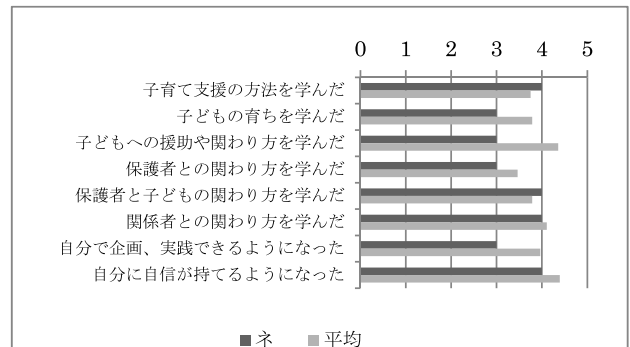


図 12

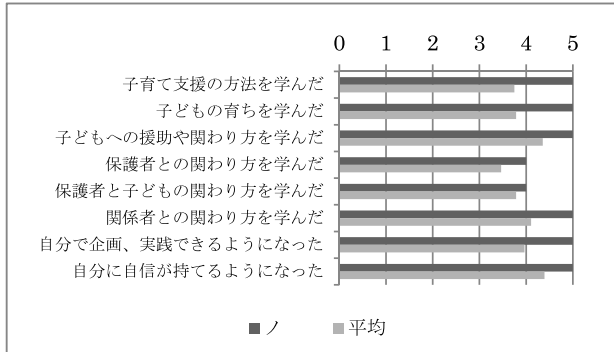


図 13

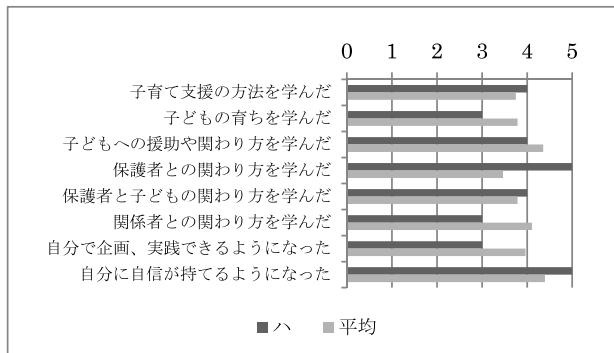


図 14

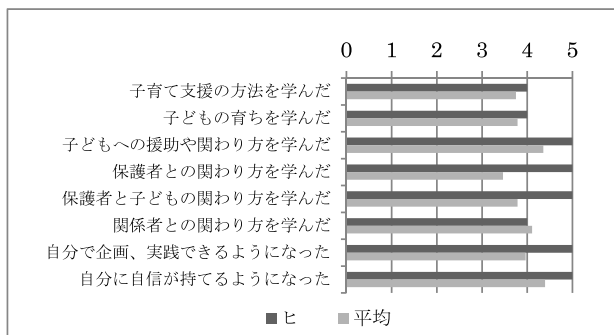


図 15

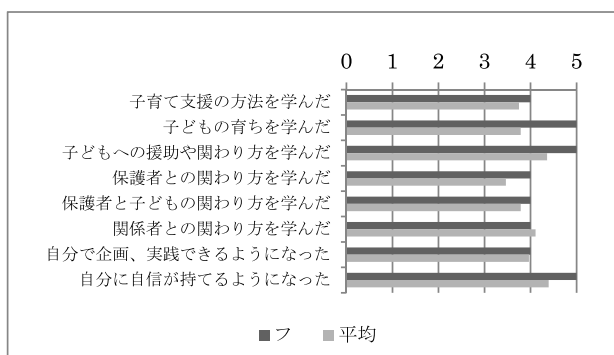


図 16

2) アンケート質問別卒業生の考えについて

アンケートの各質問項目において平均点を出した。卒業生にはその平均点に比べて極端に高い、または低い点について、なぜそう思ったかを中心に尋ねた。

① 子育て支援の方法を学んだ

点数の高い卒業生

- ・実習以外で、自分が親子の前で何かをするということが初めてだったので、その中で、経験・体験ができた(ノ)

点数の低い卒業生

- ・あっぷるの公演とほとんど同じことを、現在地域活動で行っている(セ)
- ・方法として何を学んだのか良く分からなかった(チ)
- ・ステージ公演が多かったので、ステージ以外ではあまり関われなかった(ヌ)

② 子どもの育ちを学んだ

点数の高い卒業生

- ・授業で学んだことと子どもの姿が一致して理論的に納得した(エ)
- ・年齢によってみせる内容が違っていることが分かった(フ)
- ・異年齢の子どもたちとの関わりを学べたので育ちを学ぶことができた(ノ)

点数の低い卒業生

- ・その時だけを見たので、育ちとして見分ける能力がなかった(チ)

③ 子どもへの援助や関わり方を学んだ

点数の高い卒業生

- ・生の空気を感じる事ができた(チ)

点数の低い卒業生

- ・保育士にお膳立てされた関わりしかできなかった(ヌ)

④ 保護者との関わり方を学んだ

点数の高い卒業生

- ・授業では全くできなかったので少しでも関わったことはためになった(セ)
- ・自分が話しかければ、保護者がドンドン話をしてくれるのが分かった(ト)
- ・公演で関わった親子は皆とても仲がいい。現場では必

ずしもそうでないので、あっぶるで関わった親子のようになっただけでほしいと思って声がけをしている (ヒ)

- ・実習では構えてしまっていたが、あっぶるでは気軽な雰囲気では話さなかった (ハ)

点数の低い卒業生

- ・実際、ほとんど関わらなかった (ウ, チ, テ)
- ・積極的に話しかけることができなかった (オ)
- ・現在と比較して考えた (コ)

⑤ 保護者と子どもとの関わり方を学んだ

点数の高い卒業生

- ・子どもの悩みを相談され、保護者の悩みが少し分かった (イ)
- ・気楽に話せる雰囲気だったので抵抗なく話すことができた (ヒ)

点数の低い卒業生

- ・保育現場にいる今の自分と比べると全く関わっていないと思った (コ)

⑥ 関係者との関わり方を学んだ

点数の高い卒業生

- ・保育園の先生などと関わることができた (ウ, テ, ヌ)

点数の低い卒業生

- ・公演が中心になってしまっていた (セ)
- ・公演をお膳立てしてくれるのが先生だったのであまり主体的に動けなかった (ハ)

⑦ 自分で企画・実践できるようになった

点数の高い卒業生

- ・自分でプログラムを組むことにより、会場に応じた企画が出来るようになった (ソ)
- ・園の先生たちから頼られるようになった (ノ)
- ・プログラムの流れが頭に入っているので、現在園で企画する時もその流れを実践できる (ヒ)

点数の低い卒業生

- ・当時は自分の意見をあまり出さず、グループとしては企画したが、自分自身ではそこまで関わらなかった (ネ)
- ・先生たちに頼っていたし、同じ内容を何度もした。現在も園の方針があるので自分の思うように動けない (ハ)

⑧ 自分に自信が持てるようになった

点数の高い卒業生

- ・反応が直接返ってくることが自信につながる (コ)
- ・子どもには突然があるので最初はそれが嫌だったが、いい面・悪い面が理解できると、前に出るのもいいと思え、自分の自信につながった (ト)
- ・あがり症だったが、緊張してもアドリブがきくようになり、場数を踏んだので、親子の前でミスをしてでも対応できるようになった (ハ)
- ・子どもの反応を見て内容を変えたり、子どもの言葉を受けて言えるようになるなど自信がついた (フ)
- ・堂々と振る舞えるようになり、臨機応変に言葉がけができるようになったのが自信につながった (ヒ)

点数の低い卒業生

- ・達成感はあるが自分だけの力ではない (イ)
- ・達成感はあるが、自分に自信がついたかどうかは分からないし、場馴れはしたが、それと自信とは結びつかない (セ)

3) 自由記述について

自由記述についてもさらに深く考えを聞いた。

- ・保育士の実際の動きなどが分かり、サークルと違う勉強ができた (セ)
- ・周りが見えるようになった (ウ)
- ・この経験が今役に立っているが、慢心につながらないように気をつけている (チ)
- ・経験を重ねるうちに、自分が保護者と話したいと思うようになった (ト)
- ・自分の話し方によって、子どもからの返し方が変わることに気がついた (オ)
- ・ここでの信頼関係があるから、現場でも協力して行こうという気持ちになる (ソ)
- ・子どもたちの前でどのように進めれば良いのか、流れを作ることができるようになった (イ, ヌ)
- ・時間の逆計算ができるようになればもっと良かった (ノ)
- ・事前準備を人に任せきりだったので、今手際良くできない。裏方の仕事をもっとしておけば良かった。(ウ, ノ)
- ・先輩の動きを見ることで、授業では学べないことも学んだ (ノ)
- ・子どもだけでなく保護者がいることによって、保護者

- を前にしての対応ができるようになった(ヒ)
- ・あっぷるで経験を積んだから、現在親子とよく関わることができる(ヒ)
- ・この経験を学生時代に行ったことは大きな自信につながり、周りが見えるようになった(セ)
- ・学生時代は忙しくて大変と思ったが、保育現場では忙しさは日常茶飯事だ(セ)
- ・事前にもっと学んでおけば、さらに違う角度から子ども様が見えたと思う(エ, ソ)

- ・自分が楽しむことは子どもが楽しむことだと分かった(コ, テ, ネ)
などの考えを聞くことができた。

4) 現在の仕事との関わりから

卒業生にとって、あっぷるのボランティア公演の経験が、保育現場でどのように生かされているかを示したのが図17である。

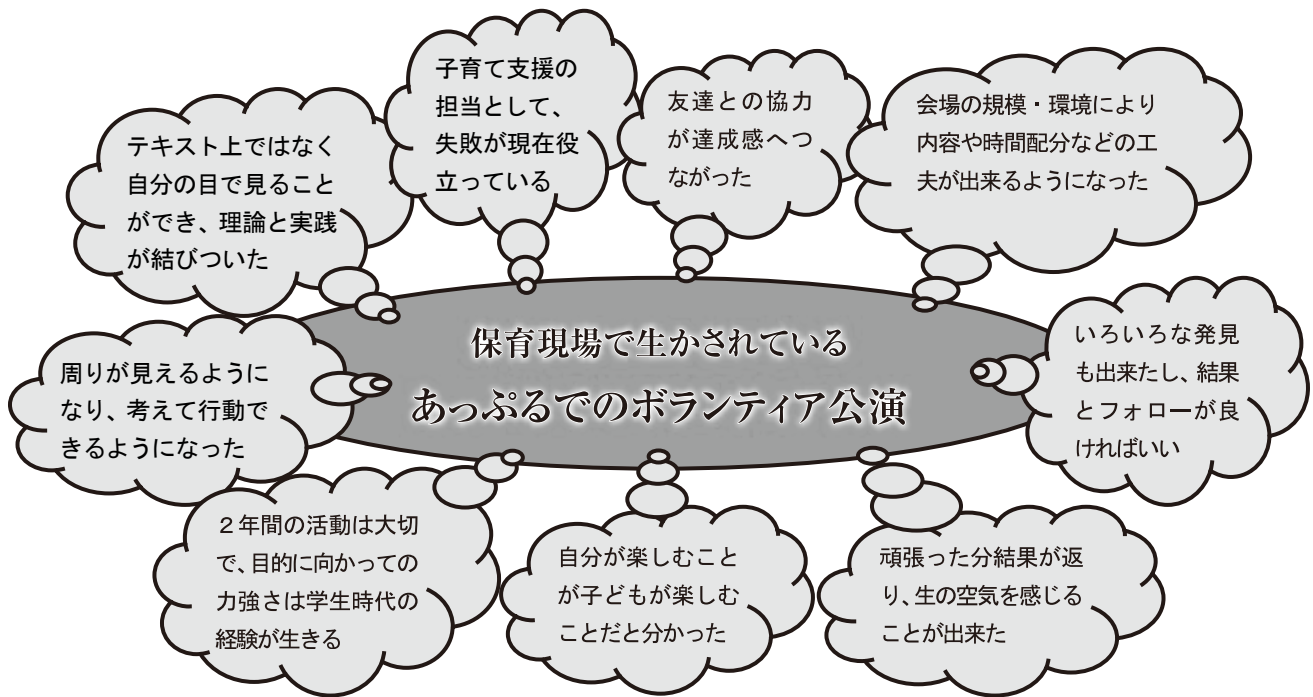


図 17

考 察

今回のアンケートと聞き取り調査の結果、質問に対しての卒業生の考え方や捉え方は様々だということが分かった。聞き取り調査の中で確認できたことは、保育現場で経験しながらボランティア活動を振り返ってのアンケート結果であるため、同じ経験をしていても捉え方に差があり、点数だけでは判断できないことが分かった。また、性格が影響しているところもあると思われる。そして、学生時代、企画から中心的に関わって来た人は、子どもへの対応など自信を持っているように感じられ、主体的

に参加していない場合は、その分自己評価が高く感じられた。しかし、卒業生全員が、学生時代にこのようなボランティア活動を行ったことは、意識変容につながり、楽しさ、難しさを学ぶことができ、現在の自分にとって大きなプラスになったと回答している。それは単に手遊びを覚えたなどの技術的なもののみならず、一步踏み込んで自己の成長をも実感できたと思われ、関係者と協力することや、回りの様子を見ながら自分のなすべきことを行うという、社会人として必要なことも学ぶことができたと考えられる。

在学中2年間にわたり、ボランティア活動を継続して

行った卒業生の多くは、その経験が自分の中で意識変容につながり、現在の仕事に何らかの形で生かしているという思いを持っている。現在、直接保育現場に携わっていない卒業生においても、在学中の経験を現在の仕事の中で応用しようとしている姿が見られた。そして、私たちのボランティア活動に対する目的の1つである、学生が自己の資質向上を図る機会とつながっていることが分かった。さらに、親子で遊べる企画を取り入れていけば、より保護者とのかかわりが学べたと思われる。もっと早い段階から学生が企画に関われば、アイデアを含め事前準備・裏方の仕事にも力を発揮できるであろう。これは私たちの反省点でもある。

卒業生からのメッセージ

あっぷるの公演を行ってよかった点

- ・技術のみならず、一步踏み込んで自己の成長を実感できる
- ・回りの様子から自分のなすべきことを見つけることができる
- ・学校、子ども以外の人との関わりもできる
- ・社会人としてマナーや心配りの学びができる
- ・学生時代にこのようなボランティア活動をたくさん行うべきである

あっぷるの公演でやっておけば良かった点

- ・事前準備にも積極的に関わる
- ・親子のふれあい遊びを企画する
- ・先輩の動きを良く見る

これらのメッセージを生かして、在学中に少しでもボランティア活動を経験して、卒業後の自己研鑽に役立ててほしいと願う。

おわりに

本研究は平成23年度中国学園大学・中国短期大学特別研究助成費を受け研究を行った。本稿作成にあたり、「あっぷる」のボランティア公演時に協力してくれた学生、支援して下さった関係者の方々、また今回卒業生としてアンケート・聞き取り調査に協力してくれた皆様に心

より感謝申し上げます。

参 考 文 献

- ・松井みさ 大橋美佐子 谷本満江「ボランティア活動における学生の意識変容について」中国学園紀要第8号 2009 p71-75
- ・松井みさ 谷本満江「ボランティア活動における学生の意識変容について（2）」中国学園紀要第10号 2011 p215-220
- ・松井みさ 谷本満江「ボランティア活動における学生の意識変容について（3）」全国保育士養成協議会第50回研究大会研究発表論文集 2011 p440-441
- ・本田尚士 「ボランティア活動へのいざない」建帛社 1993
- ・ハータ・ローザ 柴田善守監訳 「女性の職業とボランティア活動」相川書房 1979
- ・月刊学校教育相談 第20巻 第8号 2006

